

多様な協力とアイデアで持続可能なまちに！

NPO法人 玉川学園地区まちづくりの会

まちかど とつきどつき 通信

2024 03 第6号

企画・発行：NPO法人 玉川学園地区まちづくりの会・地域資源活性化プロジェクト

まちかどとつきどつき通信では、地域の価値や魅力をアップする活動や事業情報を絶賛募集しています。是非、企画担当者までおしらせください。また、2023年度の発行にあたっては、印刷費等を玉川学園・南大谷地区協議会の事業費で賄っています。

まちづくりの会って？

玉川学園地区まちづくりの会は、玉川学園地域がいつまでも緑豊かで魅力的な郊外住宅地であり続けられるよう、誰もが気持ちよく安心して住み続けられるよう、まちのあり方を模索し活動しているグループです。2005年に、地域で巻き起こった大規模マンション問題をきっかけに発足。2011年には、地域に提案した「まちづくり憲章」と玉川学園町内会の「建築並びに土地造成に関する申し合わせ事項」を元に「建築協約」が制定され、同時に提案した「まちづくり方針」と「住み良いまちと暮らしのデザインガイド」は、建築協約参考図書になりました。以来、「建築協約」の普及に努めると共に、問題のある建築や開発に対しては玉川学園町内会環境部と連携し、「地域協議」に協力してきています。

近年の主な活動テーマは、建築協約の普及に加え、緑の減少防止や保全管理育成、まちの魅力の再発見とまちの将来像の共有などです。
まちは、元々の地形の上に一軒一軒の家々、ひとりひとりの暮らしが現れて、まちの個性になり魅力にも欠点にもなり、自分たちの暮らしに跳ね返ってきます。
地域の誰もが共有し利用できる魅力的な資源（コモンズ）(昔の里山の現代版のような場所を地域のあちこちに見つけ作り出し、地域住民で維持管理していくことは、もはや貨幣や行政だけに頼れない人口減少の時代において、魅力的な景観資源にもコミュニティや福祉の増強にもつながるとも大事な課題だと筆者は思っています。

また、経済が縮小し高齢世帯が増えて行くこれからは、既に身近にあるものの価値に気づき、それらを上手に活かして育っていくことや、住民自らが小さな得意や出来ることを持ち寄り頭と体を使い、力を合わせて地域を作っていくという姿勢が大切になります。
今のままでは持て余し気味だったり、空いていたり役目を終えて使われていなかったりする建物や場所については
・今まではと視点を変えて、新たな価値や魅力として存在させたい
・複眼的に多目的に利用したり、シェアすることで有効利用することはできないか？
つまり、既にあるものを地域資源として上手に活用していくことを模索したり、おもしろく企てたり、地域で意識共有していくこと、動き出したプロジェクトです。



「住み良いまちと暮らしのデザインガイド」の表紙イラスト

玉川学園町内会や社会福祉協議会、高齢者支援センターなど地域の主だった活動主体のみならず、活動的な住民のみならずとも連携して今後の住まいや住まい方について(空き家にならないことや地域内の住み替え、住まいの一部の貸し出し、売却の仕方や維持管理など)の相談を受けたり、年をとっても地域とつながって主体的に暮らせるようなまちのあり方や暮らし方を探していきたいと思っています。

今号は、「上手な世代交代」の講演&相談会と、地域交通の実証実験「のりあいサービスさくら号」の運行に絡むワークショップを通して、玉川学園の近未来と暮らしを考える特集です！

● 近未来にはどのような暮らしやまちの環境が待ち受けているのだろうか！

対策と課題の共有—その1 坂のまちの上手な世代交代(売り方)とは？

人生100年時代の暮らし方と
三方良しの **住まいの終活**
上手な世代交代 講演&相談会
のための

日にち：2024年1月20日(土曜)
時間：14時~16時30分
場所：玉川学園コミュニティセンター
2階多目的室1A・1B・2

玉川学園地域は、いよいよ本格的な代替りの時期に来ており、あちこちで住まいの売買による更新が見られるようになってきています。そのおり、敷地が2つ3つと分割される細分化や造成による地形の改変が行われ、お隣りやご近所がびっくりがっかりされたり、まちの景観やまちとしての持続性に大きく影響を与えることが問題になっています。
そこで、売り手・買い手・ご近所それぞれにとって得になる三方良しの「上手な世代交代(住まいの終活と売り方)」のミニ講演と相談会を実施することにしました。
ミニ講演(人生100年時代の暮らし方と終活)と相談会です。個別相談では、弁護士、行政書士、宅建士、建築士がワンチームになり、それぞれの専門からのアドバイスを無料で提供いたします。
この企画は、NPO法人玉川学園地区まちづくりの会・地域資源活性化プロジェクト活動の一環として、町田市社会福祉協議会の助成により実施するものです。

講演相談とも無料です 講演会場に直接お越しください
相談される方は事前申し込みが必要です
相談申し込み先(先着15名)：
NPO法人玉川学園地区まちづくりの会 地域資源活性化プロジェクト
木村真理子 09016192911 <kimuramariko.tama@gmail.com>

企画主催：NPO法人玉川学園地区まちづくりの会・地域資源活性化プロジェクト
協力協賛：町田市町田第3高齢者支援センター

坂のまち 分割による地形の改変の問題
玉川学園は、昭和40~50年代に開発が拡がり建てられた家が多い地域です。いよいよ、本格的な代替りの時期に来ており、あちこちで住まいの売買による更新が見られるようになってきています。
斜面地が多い地域ですので、その折りには、ひとつの敷地が3つ4つと分割される敷地の細分化と造成による地形改変が行われ、穏やかで緑の多いまちの景観が殺伐としたり、高い擁壁が道行きに圧迫感を与えたり、お隣り近所の住環境に影響が出たりで、建築協約に基づく「地域協議」に発展するケースも多くなっています。
また、隣地ギリギリの高い擁壁は、老朽化しても再施工は難しく費用もかかりますから、まちとしての持続性にも大きく影響を与えることになります。

坂のまちは、狙われている？
聞くところによると、斜面地のミニ開発は、造成工事の事業者にとって格好の仕事場なのだそう。確かに、平なエリアでは敷地分割しても仕事にならないけれど、坂のまちなら造成工事が待っている！！
「売主からは安く買い、景観を壊す造成工事をし、値段をあげて売りに出す」
そうすれば、坪単価で評価判断をするようなうわっ面の「まちの価値」が維持できて、不動産事業者は、仲介手数料も多く受け取れ、しかも、土地を買う時と家を建てて売る時のダブルで受け取ることができる。ということなのだそう。

三方良しの上手な売り方をしよう！
売主は、元気なうちにしっかり売り方の準備をして売り急がず、良心的な不動産事業者(会社の知名度や規模は関係ない)に損せず売る →→→ 買主は、余分な造成工事がない分と広い敷地のため、相場よりずっと安い坪単価で買える →→→ 結果、売主と買主ともに、まちからもご近所からも喜ばれる！！という、上手な世代交代が実現する。
もちろん、売買は好みやタイミングも影響するし、どの場所でもとはいかないことですが、上手な売り方を地域住民で共有し売主予備軍の方々にもお知らせすることで、街並みが崩れてまちの魅力がなくなっていくことを阻止していきたいものです。

● 近未来にはどのような暮らしやまちの環境が待ち受けているのだろうか！

対策と課題の共有—その3

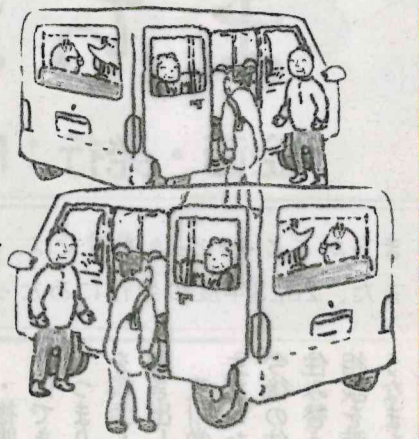
住み続けられるまちへ 玉川学園の地

● ご存知ですか？ のりあいサービス さくら号 のこと

実証実験を始める経緯について

コロナ禍をきっかけに、今まで良好な成果をあげていた玉川学園地区を走るコミュニティバス「玉ちゃんバス」が赤字に落ち入り、大幅減便になってしまいました。

特に、南ルートの利用者や住民の方から「なんとかして欲しい」との要望が市や町内会などに強く届くようになったこと、また、今後一層の高齢化が進むであろう郊外住宅地でも健康的で生き甲斐の持てる暮らしのための移動手段のあり方やコロナ禍をきっかけに変化しつつある生活スタイルを鑑みた多世代の多様な暮らしのあり方などを考えた時、どのような地域交通が必要なのだろうか？、客観的に検証する必要があるのではないかと。日頃、主体的に活動をしている人達のような思いや危機感が、地域の団体が力を合わせて今回の実証実験に乗り出すきっかけになりました。



2023.6月～さくら号の運行開始

地域の主要活動団体の責任者が集まり、地区街づくり課からアドバイザー派遣を受け、時に交通事業推進課も加わって10ヶ月に及ぶ検討を重ねました。地域活動団体は、互いの得意を持ち寄るフラットな連携と役割分担で準備を進め、2023.6月、いよいよ、さくら号の運行を開始しました。



運行の概要

- 車の愛称 : 乗り合いサービス さくら号
- 運行期間 : 2023年6月2日(金)～1年程度(延長予定)
(ただし運休日あり)
- 運行日時 : 火曜・金曜の11時と13時
玉川学園南口発～南口着(各便先着8名)
- 利用料 : 実証実験につき無料
(ただしアンケートに協力する)
- 利用方法 : 事前に桜実会に利用会員登録をする
乗りたい時にバス停で待つ
- 利用対象者 : 年齢関係なくどなたでも

運行ルートは、玉川学園南口商店街の一角①番から始まり、⑯番までの停留所を通過してまた①番に戻る一周約30分の行程です。

● 玉川学園の地域交通を考えるワークショップの報告

当日は、予想外に多くの方々、しかも多様な年齢層の方々に参加され、地域交通に関しても関心の高さを実感しました。

また、町田市から地区まちづくり課、東京都都市づくり公社の方々もオブザーバーとして参加されました。

熱気にあふれた2時間でした。

まちづくりワークショップ

玉川学園の地域交通を考える

令和6年2月3日 13時30分～15時30分

会場：玉川学園コミュニティセンター
2階多目的室1A・1B・2

「乗合サービス さくら号」を、2023年6月より玉川学園の7丁目の一部と8丁目で運行しています。地域の主要団体が力を合わせ、1年間の社会実験として実施しています。桜実会の社会貢献活動の一環でもあります。

この実験により、「心触れ合う優しい乗りもの」が、高齢化が進むこのまちに必要であるということがわかって来ました。

さくら号を契機に玉川学園の地域交通について、意見交換をする場を設けることとしました。

みなさま、是非、ご参加ください。

プログラム

- 1 開会
- 2 ワークショップ
 - ※乗合サービスさくら号、市内地域交通の現状、交通事業者の実情などについて、簡単にお話しします。
 - ※その後、グループに分かれて意見を出し合います。
- 3 発表(グループごとの意見の共有)
- 4 閉会

主催：玉川学園町内会・NPO法人桜実会・NPO法人玉川学園地区まちづくりの会
・玉川学園地区社会福祉協議会
協力：公益財団法人東京都都市づくり公社



公共交通やタクシーの運転手についても担い手いろいろな意見や要望、アイデアが話し合われ

このまちに住み続けるために必要な

- ・もっと生活の利便性を確保することが必要。
- ・住んでいる人のつながりが良いまちだと思うコミュニティを維持することが必要。

各地区に老若男女や異なる世代の人が集まれ関わりながら地域で育てるイメージ。

- ・ハード面でのまちの魅力として、坂道が多い良い。

住民はこの地区に愛着をもっている人が多い活力を維持していくためには、若者にとっての

- ・健康増進のため、外出促進(外に出たくなるだけでなく心の健康も大事である。

- ・大学と地域の関わりが必要。特に、玉川大学してほしい。

- ・今後のまちづくりとして、公共交通のルート宅街に多様性を持たせるためには用途地域の見え得るような住宅や移動販売等も欲しい。町しずつまちを変えていければ良い。

日常の移動について思うこと

- ・玉ちゃんバスの減便により、移動が不便に
- ・まちかどカフェとバスを連携させて、バスをのりかたはどうか。

- ・坂道の多さは、高齢者には移動しづらい。雪道も多いため歩きづらい。買い物の際、帰りうほかない。道の狭さも課題。

- ・病院が遠く通院が課題である。

- ・自動車を運転する際、ゾーン30になっている

- ・日常の移動を理由にこの地域に住めなくなるジェクトで、眺望や緑地景観など坂のまちを魅

或交通のあり方・移動支援のあり方を考える

● のりあいサービス さくら号の運行状況と今後

さくら号の利用状況

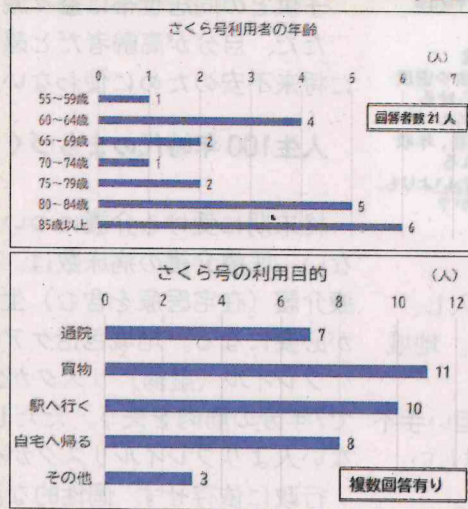
運航開始後1ヶ月間は、初日を除くと利用者は0でした(汗)
 そこで、電話での前日予約を中止したところ、7月からは徐々に利用が増え出し、一同胸を撫で下ろしました。
 運航開始から直近の2024年1月までのデータ集積で、1日平均4.5人に利用されています。特に、曜日や午前午後による大きな利用の違いはないようです。
 筆者も、アドバイザー派遣依頼や助成申請をしている町田市役所地区まちづくり課の方や東京都都市づくり公社の方と試乗させていただきましたが、いつも温かい雰囲気、さながら「移動デイサービス」「移動コミュニティスペース」のようです。また、急な坂道や細道を小まわりする運行ルートは、利用者のアンケートコメントにつながることを実感しています。

さくら号の今後

さくら号の運行は、地域にどのような交通が必要か、移動のあり方を探る1年間の実証実験として始めましたが、もうしばらく続けられないかという意見も多く、何とか続けられるように対策(運行経費の捻出と利用者の増加、役所との連携など)を検討しています。今のところ、あと1~2年ほどは続けられそうです。



第1回アンケートの結果



利用者は、80歳以上の方が多い。
 利用目的としては、買物、駅へ行くことが多い。
 利用区間は、駅と自宅近隣の間での利用が多く、特に、⑭や⑫停留所のあたりが多い。
 利用回数は、4回以上が半数で10回以上利用している人も。一部の方には確実に生活の足になっていることがわかりました。
 利用満足度は、85%の方が満足、やや満足と回答。満足度が高いことも判りました。

満足な点

家の近くから乗れる。運転手さんがとても親切。坂道が多いので助かる。座席に座れる。乗降時のサポートがあり安全に乗降できる。丁寧な言葉遣いや態度に気持ちよく利用できる。時間が正確、無料、予約無し。停留所が家の近くにある。ドライバーさんの人柄が良く、優しく親切である。
 上記のように、運転手さんがとても親切丁寧で気持ちよく安心して乗れるというコメントが数多くの方から挙げられました。

不満な点

車を出す日数が少なすぎる。せめて毎日運行にしてほしい。バス停に時間が表示されていないので、ちょっと不安になる。利用者が増えると、待っていても途中から乗れないことが不安。
 上記のような意見がありました。便数や時間については想定内でしたが、バス停に時間を表示する件は、すぐに改善できる内容なので、バス停に時刻を入れたものを作り直して交換しました。

不足が深刻になっていくこれから、個人や地域でできること、準備しなければならないことは？ なかなか難しい課題です。以下、まとめです。

こと
 が、もっと隣人との交流等を行い、
 る場所があるとよい。色々な世代が
 ことにより、高低差が生まれ景観が
 が、新たに若者を受け入れ、地域の
 まちの魅力も必要になる。
 仕掛けづくり) 必要。身体は健康だ
 はもっと地域に開かれた場所になっ
 改善などのインフラ整備が必要。住
 直しも必要では？ 地域内で住み替
 内会でまちづくり計画をつくり、少
 になった。
 待ちながら交流できる場所をつくる
 が降ると大人でも怖いと感じるし、
 の荷物がたくさんあるときは車を使
 ことが歩行者への注意を促されるの
 ことは悲しい。坂のまち元気プロ
 力を発信する。

地域交通に望むこと

新しい移動サービスの検討

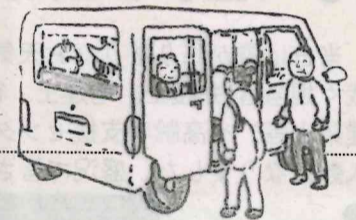
- ・道が狭く、さくら号のワゴン車でも通行が大変な場所があることから、より小さい車両の乗り合いタクシーやライドシェアも考えていく。長期的には、自動運転バスやAIバス等も。
- ・駅近くの駐車場等から電動アシスト自転車をレンタルで使えるようにすることや荷物だけ坂の上まで移送してくれるサービスも考えられる。

玉ちゃんバスへの要望

- ・南ルートが大幅に減便されたが、何の説明もないままである。
- ・最終便が夕方早すぎる。乗降する際に段差がある。
- ・玉ちゃんバスがあるのとないのでは大きな違いである。現状、南ルートは他ルートと比べて赤字であるため、利用者を増やす方法を考えていきたい。
- ・東ルートを今度できる銭湯までつなげることができれば、利用者が増えると思う。

さくら号への要望

- ・もう少し利用が増えると良い。みんなが使う意識が大切である。そのためには、高齢者だけでなく、みんなが使いやすい必要がある。子ども連れにも使ってもらおうPRが必要である。利用者が今以上に増えれば増便も検討する。
- ・片方向の周回のため、行けない場所がある。逆回りも運行するか、続けて2周運行してほしい。1周のルートが長いと思う。2つや3つに分けて駅に行けると便利である。
- ・運行時間が1日2本であり、買い物で使いづらい時間設定だ。玉ちゃんバス南ルートの時刻表とさくら号の時刻表を調整して重複しないようにしてもらいたい。
- ・ルートで回る場所に、コミュニティの核となっている施設を入れるのはどうか。さくら号を活用したツアーがあるとよい。景色を見るツアーや、まちかどカフェに行くためのツアーなど。
- ・地区の南方へ延伸することで、町田の方へ出やすくなったり玉川学園に来やすくなったりする。南方の地区にある別の事業所に協力してもらえば、運行を増やすこともできるのではないかな。
- ・さくら号があって助かっている。運転手がすごく親切であり、ちょっとした介護も行ってもらえる。バスの車内でコミュニティが生まれていると聞いている。ルートも良いと思う。
- ・さくら号を継続してもらいたいので、運営の仕組みを若い世代も加わり、みんなで考えるべきである。
- ・地域の中で、運転手等人材を発掘していく必要があるのではないかな。
- ・寄付の仕組みづくりが重要になる。投げ銭やお気持ち代等で少しでも利用者がお金を負担することが考えられる。無料で使うと利用者の心理的にも乗りづらい。



● 近未来にはどのような暮らしやまちの環境が待ち受けているのか！ 近未来の社会状況は？ 必要な準備や心がけとは？

対策と課題の共有一その2



超高齢社会とはどのような都市像か？

あと5年もすると団塊世代が80歳に突入り、在宅ケアと生活支援ニーズがぐっと増える。地域社会そのものが高齢化する。

10年後(2035)には深刻な医療介護の担い手不足が待っている。家族に介護を頼るのも難しい。ひとり暮らし高齢者の不安や不満が増える。消費型社会は終わりを迎え、かつての学歴や肩書きも役に立たない。個々が自分らしい幸福を見つけて生きる時代がやってくる。

- ・ 中堅所得層の二入への対応
- ・ ワクチン接種の自己実現(若い世代も同じ)
- ・ ワクチン接種の自己実現(若い世代も同じ)
- ・ 在宅医療を含む地域包括ケアシステム
- ・ 地域単位での包括的な支援(医療、社会参加、生活習慣)
- ・ 地域型サービス、民間の生活支援サービス
- ・ かかりつけ医と介護支援専門員、自治体のさらなる連携
- ・ シェア予防と自己実現の居場所をつなぐ
- ・ 2035年 85歳以上人口1000万人 → シェア予防
- ・ 地域包括ケアは厚労省版まちづくり政策
- ・ 今住んでいるまちを超高齢社会対応にしてい
- ・ 高齢者自身が元気なうちに自分のニーズを自分で満たす
- ・ その積み重ねが、最期まで暮らせるまちなちになる

● 「上手な世代交代」のための講演&相談会の様子

当日は雪が降りそうなお天気でしたが、イベントの参加者は35名強。我々担当者(弁護士、行政書士、まちづくりの会(以下、会)の建築士等)や高齢者支援センターなどの関係者を含めると、50人を超える人数になりました。盛況で皆さんの関心の高さが伺えました。



まず1部として「人生100年時代の暮らしと終活」というテーマで、超高齢社会のまちづくり研究をされている東海大学の後藤先生に「対策と課題の共有一その2」に報告した内容の講演をしていただきました。先生のお話は、聴衆の年齢(70代80代が多い)に付度なく歯切れ良い直球で、痛気持ちよくピリッと響きました(笑) 高齢者の多くは自分を高齢者だと思っておらず、お金を使わないか、お金があっても病院や施設は担い手不足で、最期は自宅しかならない。自身が元気なうちに自分のニーズを自分で満たすことの積み重ねが最期まで暮らせるまちなちになるのだと。何事も自分事として自ら動くことと深い覚悟が必要ですね。また、計らずも高齢者自身も地域資源活性化proの対象なのだ！と気がつきました(笑)

地域資源活性化プロジェクトの 不定期ですが、これからも玉川学園で安心して暮らせるような情報、まちを魅力的に楽しくするアイデアや素敵な活動をしている方々の情報をお届けしていきます。是非是非覗いてください！

Facebookページ (7/27) → ホームページ → QRコード

Facebookページ → QRコード

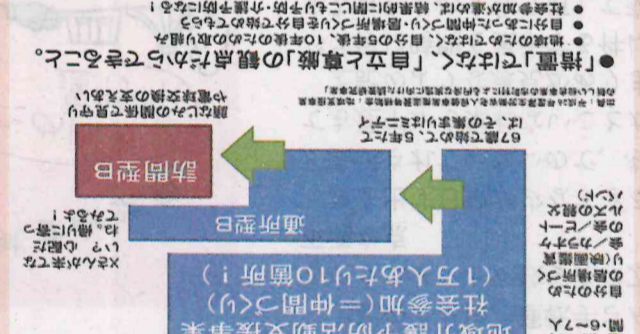
企画&編集・文責&連絡先：木村真理子 090-1619-2911

発行：NPO法人玉川学園地区まちづくりの会

地域資源活性化プロジェクト

NPO法人玉川学園地区まちづくりの会事務局：tamagakumachou@gmail.com

自分のための仲間づくり・居場所づくり



自己的人生100年時代のまちづくりと住まいづくりとは - 自立支援 -

終末期に受ける介護について、病院施設か在宅かという選択肢は、もはや、ない。つまり、自宅しかない。医療介護の病床数は、高度急性期から回復期対応へシフトしている。そこで、高齢者の住宅と医療介護(在宅医療を含む)生活支援を連携させる自立支援型・分散・フレキシブル型の地域包括ケアシステムが必要になる。地域包括ケアは、厚労省版のまちづくり政策である。

フレイル(虚弱)リスクが大きいのに関しても、孤独は肥満より健康に悪い。また、2週間の入院で7年分の筋肉を失う。ただし、運動をしないで趣味や地域活動をしている人の方が、運動だけしかならない人よりフレイルリスクが小さい。いかに、社会との関わり(コミュニティ作り)が大切か。

行政に依存せず、個性的な高齢者を丸ごとケアするのでもなく、地域資源と考える。高齢者自身が元気なうちに自分に自分のニーズを自分で満たすよう動くこと。居場所づくりから始めて、楽しみながら自分に書きも役に立たない。個々が自分らしい幸福を見つけて生きる時代がやってくる。

2部では、「街並みを崩さない売り方」を共有する主旨で、町内会環境部で建築協約普及に取り組みの木村彰男さんに玉川学園の土地売買の事情や対策を、同じく会の浅倉さんには会が関わった「街並みを崩さない売り方」の成功事例を、辻弁護士には事前準備として遺言や任意後見等の利用に関して、高橋宅建士&行政書士には不動産売買の貴重な裏話を報告していただきました。一旦閉会後は、各士業がソフチームで個別相談に対応しました。

アンケートの結果

50代以下 5人 全て女性(学園地域以外がほとんど)、

60代 7人 男女半々(ほぼ玉学在住)

70代 12人 男女半々(ほぼ玉学在住、一部東玉、南大谷)

80代 9人 男女半々(ほぼ玉学在住)

感想概要として、後藤先生のお話はインパクトがありとても良かった。各士業の方々のポイント説明や事例紹介もとても役に立ち面白かったと、好評でした。それぞれの時間が短い、具体的な解決策の示唆がないとの意見もありましたが、満足との感想がほとんどでした。

講演を聴いてのフィードバックとして、以下のコメントが印象に残りました。

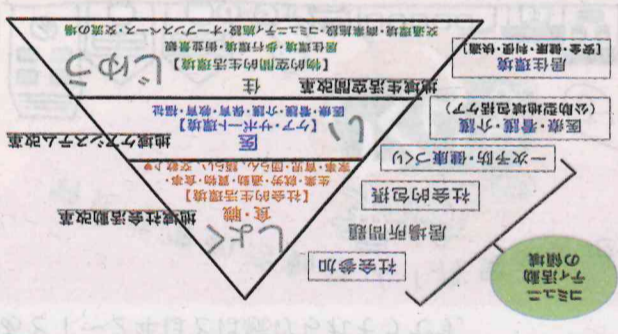
50代以下、親にも話す。自分も何かやってみる。

60代、活動に参加する。不動産の相談先を検討する。

70代、自宅のリフォーム、街に投資する。高齢者に金を使わせる、行政に頼らない組織理念を育てる他、団塊らしいコメント。

80代、身辺準備をすぐにする、活動に参加する、歩くなど。

コミュニティ生活環境(基盤)の3領域



自己的人生100年時代のまちづくりと住まいづくりとは - 自立支援 -

ただ、自分が高齢者だと感じるのは80歳になってやってくるという人がほとんどで、お金を持っている人が多くなる。ひんびんころりはごく少数。

先も寿命があるという。70代の後半からは日常的な生活動作や基本的な動作に援助が必要になる人生100年時代。男性は87~8歳、女性は92~3歳が寿命のピーク。その歳に到達した人の半数はその終末期に受ける介護について、病院施設か在宅かという選択肢は、もはや、ない。つまり、自宅しかない。医療介護の病床数は、高度急性期から回復期対応へシフトしている。そこで、高齢者の住宅と医療介護(在宅医療を含む)生活支援を連携させる自立支援型・分散・フレキシブル型の地域包括ケアシステムが必要になる。地域包括ケアは、厚労省版のまちづくり政策である。

フレイル(虚弱)リスクが大きいのに関しても、孤独は肥満より健康に悪い。また、2週間の入院で7年分の筋肉を失う。ただし、運動をしないで趣味や地域活動をしている人の方が、運動だけしかならない人よりフレイルリスクが小さい。いかに、社会との関わり(コミュニティ作り)が大切か。

行政に依存せず、個性的な高齢者を丸ごとケアするのでもなく、地域資源と考える。高齢者自身が元気なうちに自分に自分のニーズを自分で満たすよう動くこと。居場所づくりから始めて、楽しみながら自分に書きも役に立たない。個々が自分らしい幸福を見つけて生きる時代がやってくる。

地域資源活性化プロジェクトの 不定期ですが、これからも玉川学園で安心して暮らせるような情報、まちを魅力的に楽しくするアイデアや素敵な活動をしている方々の情報をお届けしていきます。是非是非覗いてください！

Facebookページ (7/27) → ホームページ → QRコード

Facebookページ → QRコード

企画&編集・文責&連絡先：木村真理子 090-1619-2911

発行：NPO法人玉川学園地区まちづくりの会

地域資源活性化プロジェクト

NPO法人玉川学園地区まちづくりの会事務局：tamagakumachou@gmail.com